

平成21年度

掛之上遺跡79・80・81・82・84

写真図版編

2010

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

平成 21 年度

掛之上遺跡79・80・81・82・84

－ 写真図版編 －

2010

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

例 言

1. 本書は、平成21年度に袋井市教育委員会と袋井市役所都市建設部区画整理課が実施した、^{おびのうま}掛之上遺跡の第79～82・84次発掘調査報告書写真図版編（地域活力基盤創造交付金予算分報告書）である。
2. 本発掘調査は袋井市教育委員会松井一明を発掘調査の担当者として実施した。
3. 本調査に係る事務については、袋井市役所都市建設部区画整理課公共施行係が行った。特に、公共施行係の藤原資郎、杉山資治、村田理美、大澤勇人、奥野山誠、鈴木重光の各氏には、現場と事務に関して円滑な調整をして頂いた。ここに記して感謝いたします。
4. 本書の編集は松井が行った。
5. 本書に使用した現場写真のうち、空中全景写真については株式会社フジヤマが撮影したものを、その他遺構個別写真については松井が撮影したものを使用した。
6. 本調査で得た資料については、すべて袋井市教育委員会が保管している。

写真図版目次

- 巻頭カラー図版1 (1) 第79次-2発掘調査区空中写真全景 (2) 第80次発掘調査区空中写真全景
- 巻頭カラー図版2 (1) 第81次・第82次-1北発掘調査区空中写真全景
(2) 第82次発掘調査区空中写真全景
- 巻頭カラー図版3 (1) 第82次発掘調査区空中写真全景 (2) 第84次-1発掘調査区空中写真全景
- 巻頭カラー図版4 (1) 第84次-2発掘調査区空中写真全景
(2) 第84次-1発掘調査区S B68付近空中写真全景
- 図版1 (1) 第79次-1発掘調査区空中写真遠景 (2) 第79次-1発掘調査区空中写真全景
- 図版2 (1) 第79次-2発掘調査区空中写真全景 (2) 第79次-2発掘調査区空中写真全景
- 図版3 (1) 西半分柱穴群 (2) 東半分柱穴群
- 図版4 (1) S D93 (2) 人力による作業風景
- 図版5 (1) 第80次発掘調査区全景 (2) 第80次発掘調査区全景
- 図版6 (1) S B52空中写真 (2) S B52炉跡
- 図版7 (1) S H12 (2) S H12空中写真
- 図版8 (1) S H12P 3土層 (2) S H12P 3
- 図版9 (1) S H12P 4土層 (2) S H12P 4
- 図版10 (1) S H13・15 (2) S H14
- 図版11 (1) S Z 4空中写真 (2) S Z 4北溝内土器出土状況
- 図版12 (1) S Z 4北溝内焼土 (2) S Z 4西溝内土器出土状況
- 図版13 (1) S D95 (2) S K175土器出土状況
- 図版14 (1) S X16 (2) 調査区北壁中央土層
- 図版15 (1) 人力による作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
- 図版16 (1) 第81次・第82次-1北発掘調査区空中写真遠景
(2) 第81次・第82次-1北発掘調査区空中写真全景
- 図版17 (1) 第81次発掘調査区空中写真全景 (2) 第81次発掘調査区空中写真全景
- 図版18 (1) S B16・23 (2) S B16かまど
- 図版19 (1) S B23かまど・貯蔵穴 (2) S B23かまど土層
- 図版20 (1) S B24 (2) S B24貯蔵穴
- 図版21 (1) S B25 (2) S B25貯蔵穴
- 図版22 (1) S Z15・16空中写真 (2) S Z16
- 図版23 (1) S K71 (2) S K74・82
- 図版24 (1) S K78 (2) S K79
- 図版25 (1) S K80 (2) S K81・83・84
- 図版26 (1) 重機による表土掘削作業 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
- 図版27 (1) 第82次-1北発掘調査区空中写真全景 (2) 第82次発掘調査区空中写真全景
- 図版28 (1) 第82次発掘調査区空中写真全景 (2) S B17
- 図版29 (1) S B17焼土・炉跡 (2) S B57
- 図版30 (1) S B57かまど (2) S B57貯蔵穴土層
- 図版31 (1) S B57貯蔵穴 (2) S B58
- 図版32 (1) S B58炉跡 (2) S B58石器出土状況
- 図版33 (1) S B59 (2) S B59かまど

- 図版34 (1) S B59貯蔵穴 (2) S B60・61
 図版35 (1) S B60かまど (2) S B60貯蔵穴
 図版36 (1) S B61炉跡 (2) S B62
 図版37 (1) S B62かまど・土器出土状況 (2) S B62貯蔵穴
 図版38 (1) S B63 (2) S B63かまど・土器出土状況
 図版39 (1) S B63貯蔵穴 (2) S B64
 図版40 (1) S B64かまど・土器出土状況 (2) S B64貯蔵穴・土器出土状況
 図版41 (1) S B65 (2) S B65炉跡
 図版42 (1) S B59付近往穴群 (2) S H16
 図版43 (1) S H16 P204・207 (2) S Z 5 空中写真
 図版44 (1) S Z 6 空中写真 (2) S Z 6 南溝内土器出土状況
 図版45 (1) S Z 7 (2) S Z 7 西溝内土器出土状況
 図版46 (1) S K186 (2) S K191
 図版47 (1) S K192・195 (2) S K193・194
 図版48 (1) S P176 (2) 1 南調査区 S B59付近東壁土層
 図版49 (1) 2 調査区 S B65付近東壁土層 (2) 重機による表土掘削作業
 図版50 (1) 人力による作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景
 図版51 (1) 第84次-1 発掘調査区空中写真遠景 (2) 第84次-1 発掘調査区空中写真全景
 図版52 (1) 第84次-1 発掘調査区空中写真全景 (2) 第84次-2 発掘調査区空中写真全景
 図版53 (1) 第84次-1 南発掘調査区空中写真全景 (2) S B54
 図版54 (1) S B54石器出土状況 (2) S B54炉跡
 図版55 (1) S B55 (2) S B66
 図版56 (1) S B67 (2) S B67かまど
 図版57 (1) S B68 (2) S B68炉跡
 図版58 (1) S B68石器出土状況 (2) S B69
 図版59 (1) S B69炉跡 (2) S B70
 図版60 (1) S B70炉跡 (2) S B71
 図版61 (1) S B72炉跡 (2) S B73
 図版62 (1) S B74 (2) S B74炉跡
 図版63 (1) S B75 (2) S X17
 図版64 (1) S X17焼土 (2) S H3 空中写真
 図版65 (1) S H3 P14土層 (2) S H3 P14
 図版66 (1) S D109 (2) S D113・114空中写真
 図版67 (1) S D113西溝土層 (2) S K179
 図版68 (1) S K196 (2) S K200
 図版69 (1) S K201 (2) S K202・203・207
 図版70 (1) S K204~206・208 (2) S K204・205
 図版71 (1) S K216・217 (2) S P444
 図版72 (1) 1 調査区 S B71付近西壁土層 (2) 重機による表土掘削作業
 図版73 (1) 人力による作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景

※表紙写真 第84次発掘調査区 S B68付近空中写真 (弥生時代中期後葉~後期の住居群が集中する地域である。上が南で、真上より)

写真図版



(1) 第79次-2発掘調査区空中写真全景
(古墳時代後期、中世の掘立柱建物と思われる柱穴が多数検出された。西より)



(2) 第80次発掘調査区空中写真全景
(弥生時代中期後葉の方形周溝墓、弥生時代後期の竪穴住居、奈良時代の掘立柱建物などが重複している。上が北で、真上より)



(1) 第81次・第82次-1北発掘調査区空中写真全景
(第81次発掘調査区は右側、第82次-1北発掘調査区は左側の調査区である。何れの調査区からも弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居が多数検出されている。上が北で、真上より)



(2) 第82次発掘調査区空中写真全景
(奥が1区南、手前が2区である。何れの調査区からも、弥生時代中期後葉の方形周溝墓、弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居が多数重複して検出された。南より)



(1) 第82次発掘調査区空中写真全景
(左側が1区南、右側が2区である。弥生時代中期後葉～古墳時代後期の遺構以外では、中世の大型土坑と掘立柱建物も検出されている。西より)



(2) 第84次-1発掘調査区空中写真全景
(弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居、同時代の柱穴が多数切り合い居住域の中心であったことが判明した。中・近世の区画溝も検出されている。南より)



(1) 第84次-2発掘調査区空中写真全景

(1区と同様に弥生時代後期、古墳時代後期の竪穴住居や中・近世の区画溝が検出された。上が北で、真上より)

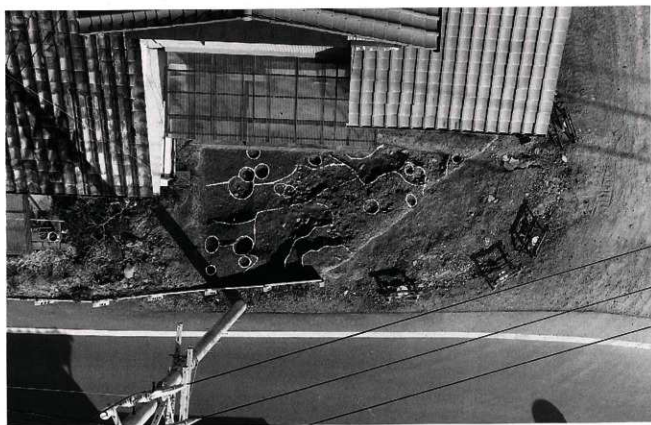


(2) 第84次-1発掘調査区S B68付近空中写真全景

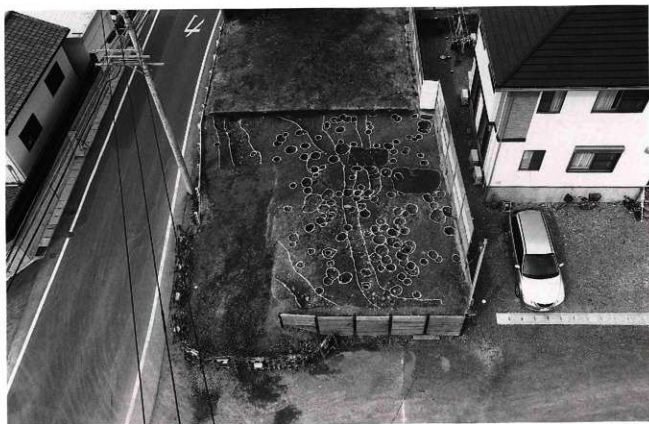
(弥生時代後期の建替えが多い竪穴住居が多数見られる。西より)



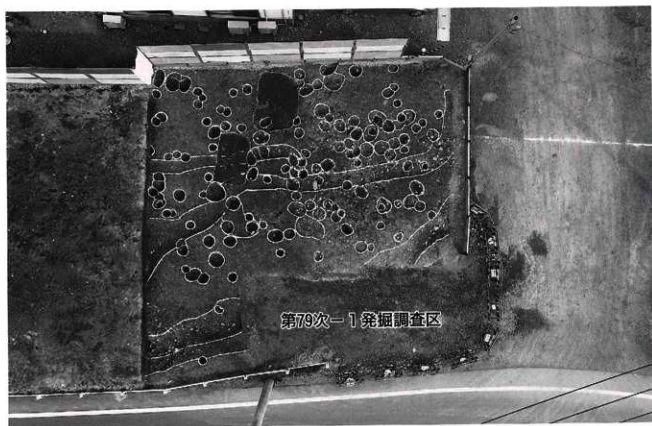
(1) 第79次-1発掘調査区空中写真遠景
(遺跡の東端に近い位置の調査区で、古墳時代後期と戦国時代の柱穴群が検出されている。
建物としての組合せは分からない。東より)



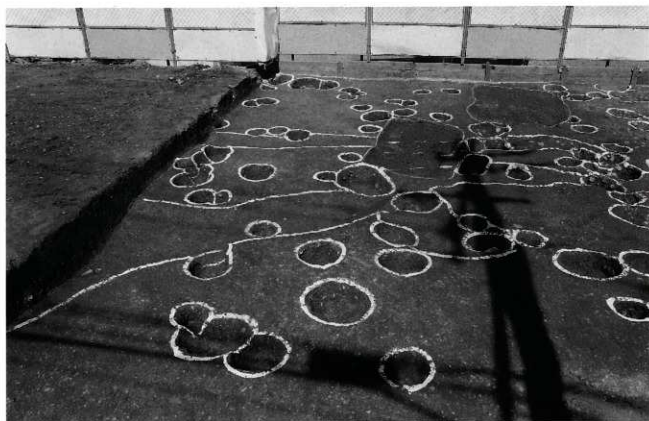
(2) 第79次-1発掘調査区空中写真全景
(溝は江戸時代末期の排水を兼ねた区画溝であろう。上が北で、真上より)



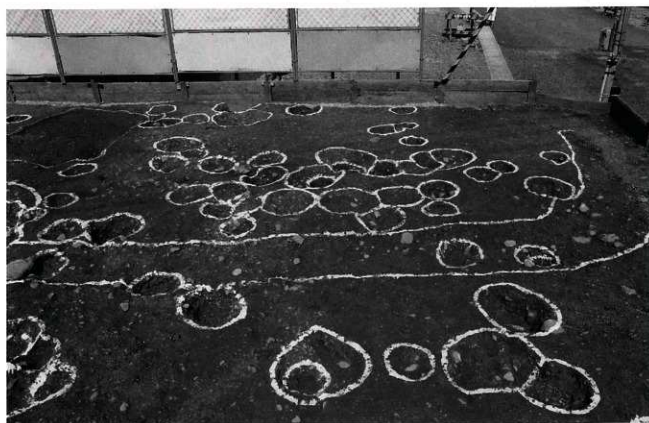
(1) 第79次-2発掘調査区空中写真全景
(弥生時代後期、古墳時代後期、戦国時代の柱穴が多数検出されている。東より)



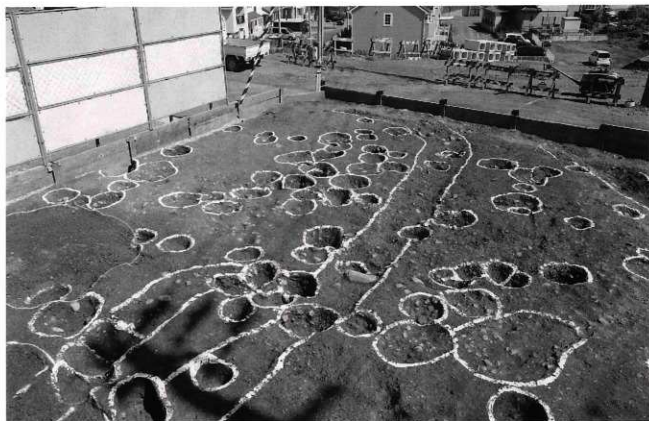
(2) 第79次-2発掘調査区空中写真全景
(柱穴は掘立柱建物を構成するものと見られるが組合せが判明したものはない。
溝は江戸時代末期の排水を兼ねた区画溝であろう。上が北で、真上より)



(1) 西半分柱穴群
(多数の柱穴群が検出されたが組合せがわかるものはない。南より)



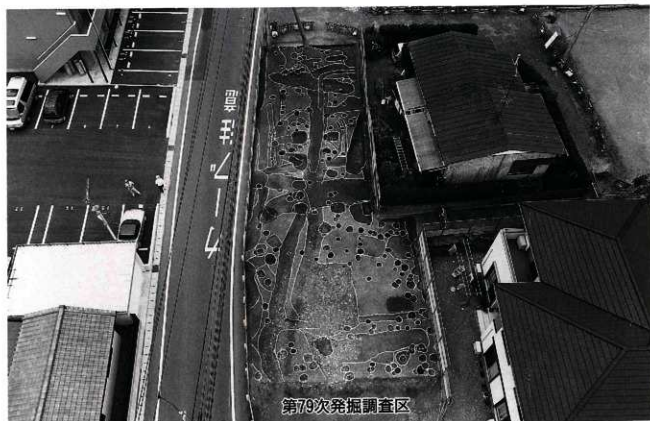
(2) 東半分柱穴群
(多数の柱穴群が検出されたが組合せがわかるものはない。南より)



(1) SD93
(江戸時代末期の排水を兼ねた区画溝であると思われる。西より)



(2) 人力による作業風景（柱穴群の掘削をしている。）



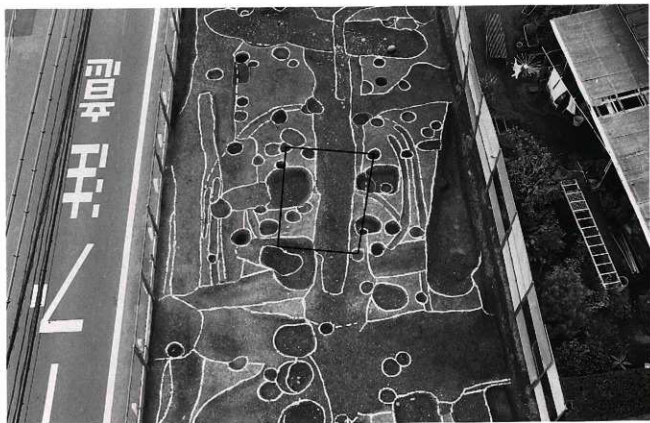
(1) 第80次発掘調査区全景

(第79次発掘調査区の西隣の調査区である。弥生時代中期後葉の方形周溝墓、弥生時代後期の竪穴住居、奈良時代の竪立柱建物が重複して検出された。東より)



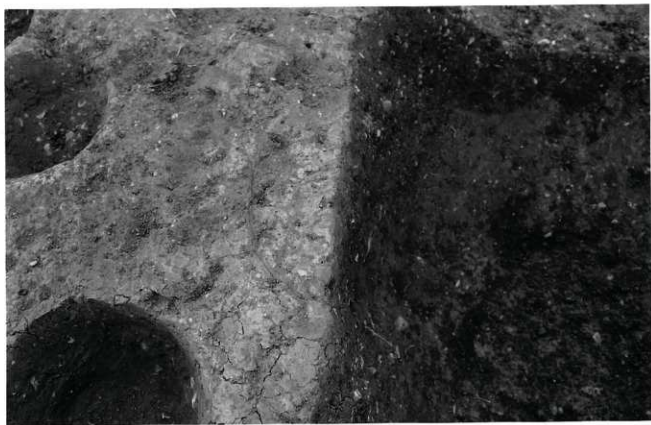
(2) 第80次発掘調査区全景

(東西方向に延びた溝は江戸時代末期の排水を兼ねた区画溝である。南より)



(1) S B 52空中写真

(弥生時代後期の楕円形プランの竪穴住居である。壁溝からは3回以上の建替えがあったと思われる。東より)



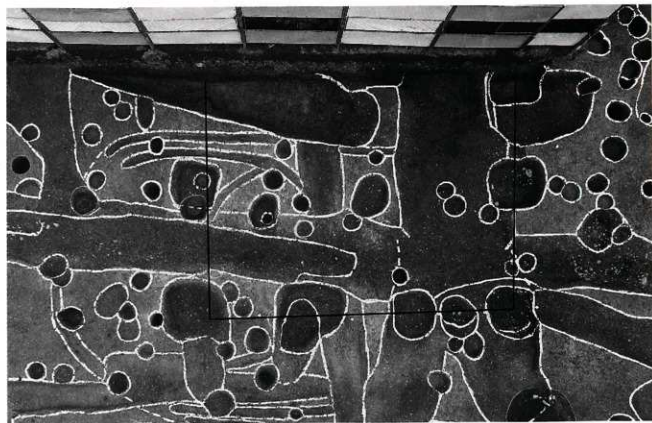
(2) S B 52跡

(地床跡であるが、SH12の柱穴により半分壊されているので、残存状況は良くなかった。南より)



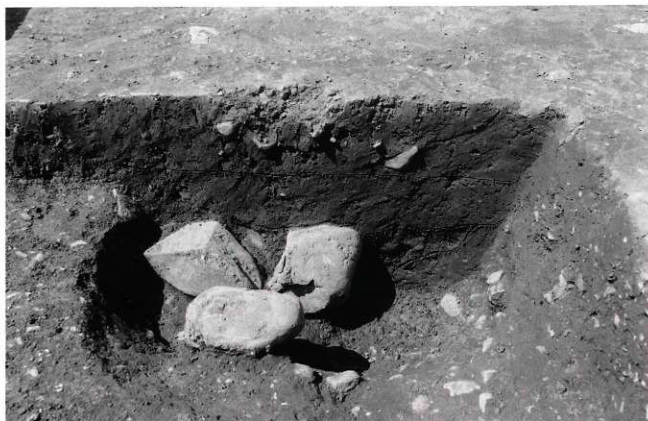
(1) SH12

(奈良時代の東西3間、南北2間以上の大型の部類に属する掘立柱建物である。南より)



(2) SH12空中写真

(主軸が少し東に振れる掘立柱建物で、奈良時代の郡衙正倉と同一の主軸方向を示しているため、郡衙関連建物であることは明らかである。上が北で、真上より)



(1) SH12P 3土層

(南東端の柱穴である。土層からは柱穴の痕跡は分らない。やや浮いた位置で基礎石が据えられているため、建替えがあった可能性がある。南より)



(2) SH12P 3 (基礎石が全面に敷かれていることが分かる。西より)

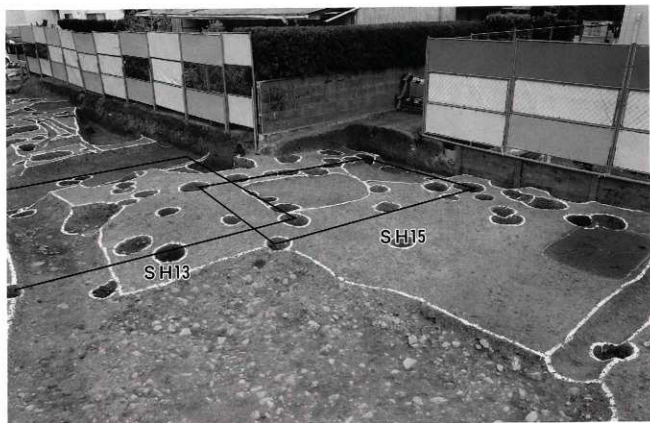


(1) SH12P4土層

(P3の西隣の柱穴である。土層からは柱穴の痕跡は分らない。やや浮いた位置で石が据えられているため、建替えがあった可能性がある。南より)

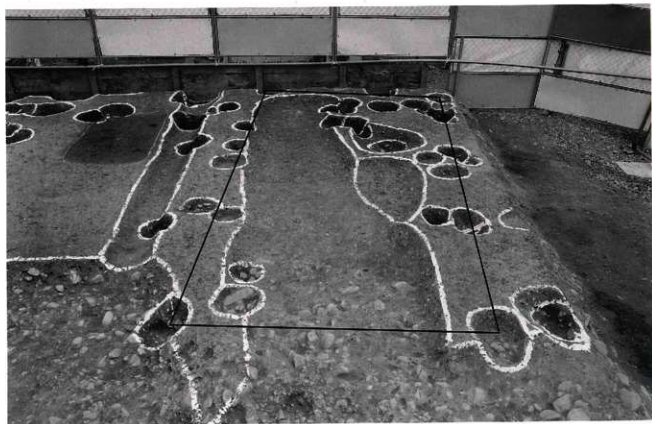


(2) SH12P4 (根巻石として扁平な石が敷かれていることが分かる。南より)

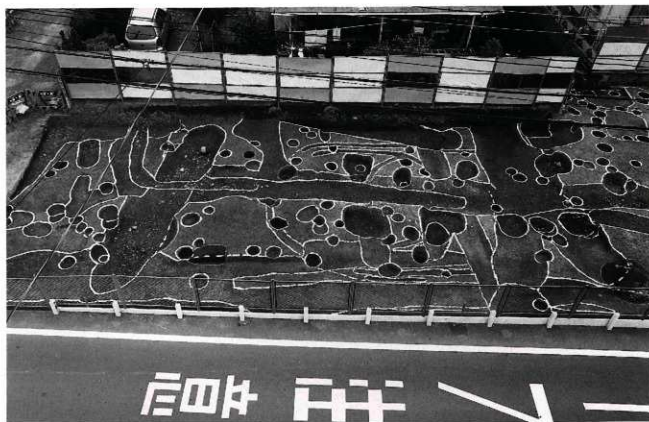


(1) SH13・15

(1間×2間の小型掘立柱建物で、戦国時代に属すると見られる。
重複するSH13は、3間×3間の古墳時代後期の掘立柱建物と思われる。南東より)



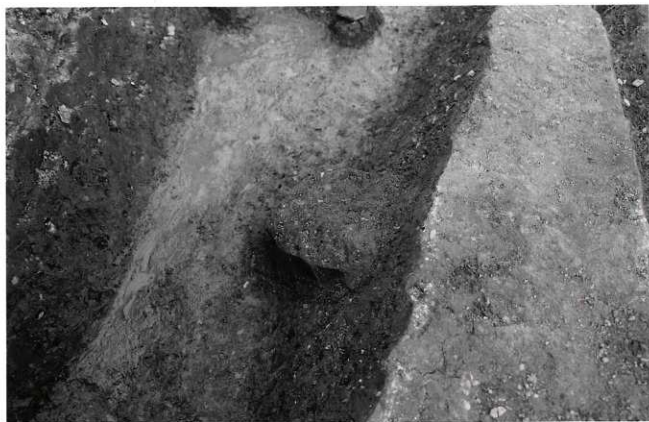
(2) SH14 (1間×2間の小型掘立柱建物で、戦国時代に属すると見られる。南より)



(1) SZ4空中写真
 (四隅に陸橋を設ける典型的な弥生時代中期後葉の方形周溝墓である。
 北溝より大量の土器が出土している。南より)



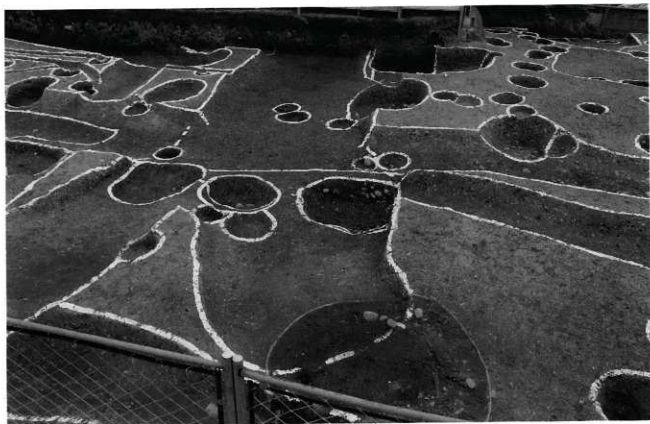
(2) SZ4北溝内土器出土状況
 (弥生時代中期後葉の壺や甕の破片、磨製石斧が底よりやや浮いて大量に出土している。
 供献用ではなくて、集落域からの廃棄土器の可能性もある。西より)



(1) S Z 4北溝内焼土
(浮いた状態で焼土が検出された。溝内で火を焚いたというよりも、
方台部内よりの焼土が流れ込んだように見える。西より)



(2) S Z 4西溝内土器出土状況
(弥生時代中期後葉の小型壺が底近くより出土している。完形品については、供獻用土器と見られる。
人頭大の円礫は底よりやや浮いている。溝内埋葬の標石であろうか。南より)



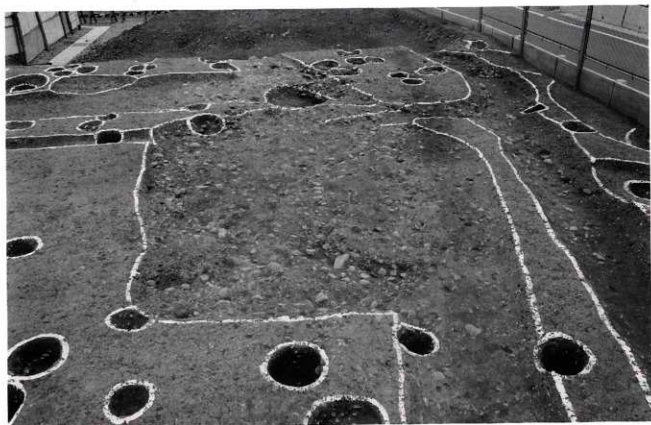
(1) S D95

(弥生時代後期の溝であるが、手前でとぎれるため方形周溝墓の溝になる可能性もある。南より)

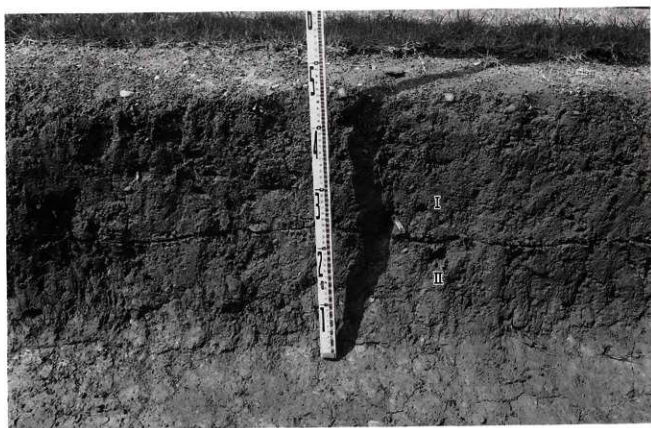


(2) S K175土器出土状況

(弥生時代中期後葉の方形の土坑で、拳大の礫や壺の破片が出土しているので、廃棄用土坑と見られる。S Z 4北溝の土器と関係あるかもしれない。西より)



(1) S X16 (江戸時代末期の方形の大型土坑と思われる。溝と接続するので水溜用と思われる。西より)

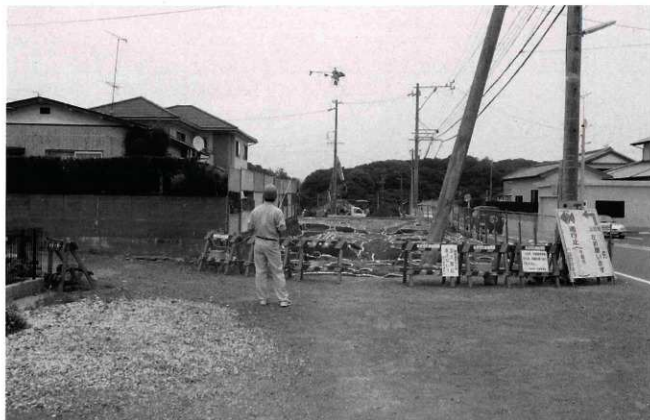


(2) 調査区北壁中央土層

(厚さ25cmの包含層が調査区北半に見られたが、南と東側にはほとんど包含層は存在しなかった。南より)



(1) 人力による作業風景 (SZ4北溝の土器の検出作業をしている。)



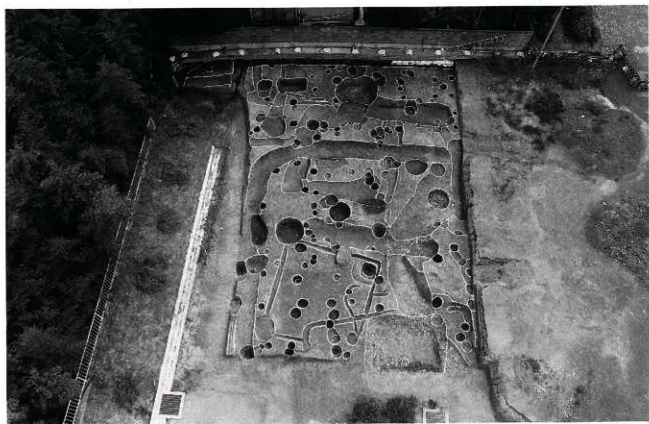
(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



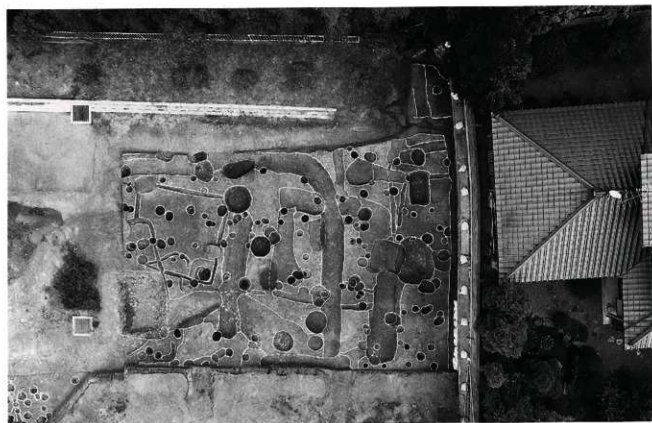
(1) 第81次・第82次-1北発掘調査区空中写真遠景
(遺跡の北東端に近い場所の調査区である。左側に原野谷川が浸食する段丘崖線、上方には小笠山山麓が展開している。西より)



(2) 第81次・第82次-1北発掘調査区空中写真全景
(第81次発掘調査区は右側、第82次-1北発掘調査区は左側の調査区である。
何れの調査区からも弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居が多数検出されている。上が北で、真上より)



(1) 第81次発掘調査区空中写真全景
(弥生時代中期後葉の方形周溝墓と、古墳時代後期の竪穴住居が重複して検出されている。西より)



(2) 第81次発掘調査区空中写真全景
(溝と円形の土坑は、江戸時代末期の排水用の区画溝と水溜用土坑である。上が北で、真上より)



(1) S B16・23

(何れも古墳時代後期の竪穴住居で、S B16は北壁にかまどが設けられているが、S B23については東壁にかまどが設けられている。S B16は壁溝から位置を少しずらして最低2回の建替えがあり、切合関係からはS B23のほうが古い。南より)



(2) S B16かまど

(土層を見ると焼土と白色粘土が混ざっていることから、壊されていることが分かる。西半分は第75次-2発掘調査区で検出されている。南より)



(1) S B23かまど・貯蔵穴
(かまどの右隣に壺型土器と、L字形の土手に開かれた貯蔵穴が検出された。西より)



(2) S B23かまど土層
(内部の壁面が焼けていることが分かり、掛之上遺跡では壊されていない保存状況の良い数少ないかまどである。西より)



(1) S B24

(古墳時代後期の竪穴住居で、北壁のかまどは調査区外になり検出されていない。手前には貯蔵穴と見られる土坑が発見された。壁溝から最低2回の建替えがあったと思われる。南より)

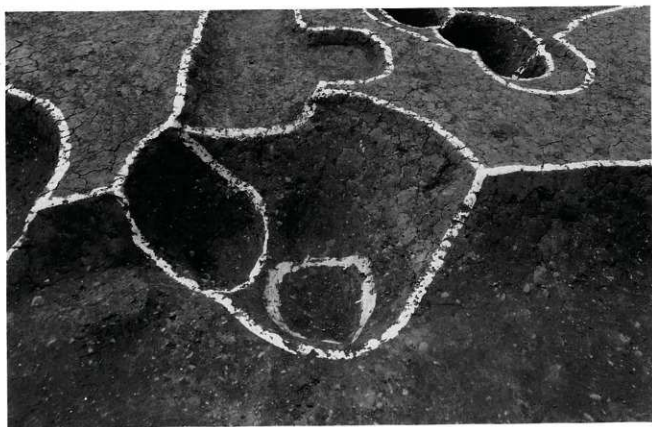


(2) S B24貯蔵穴(竪穴住居の南壁の出入口付近に設けられたものと見られる。南より)



(1) S B25

(古墳時代後期の竪穴住居で、北壁のかまどはSD19により壊されているらしく
検出されていない。南壁中央には貯蔵穴と見られる土坑が発見された。南より)



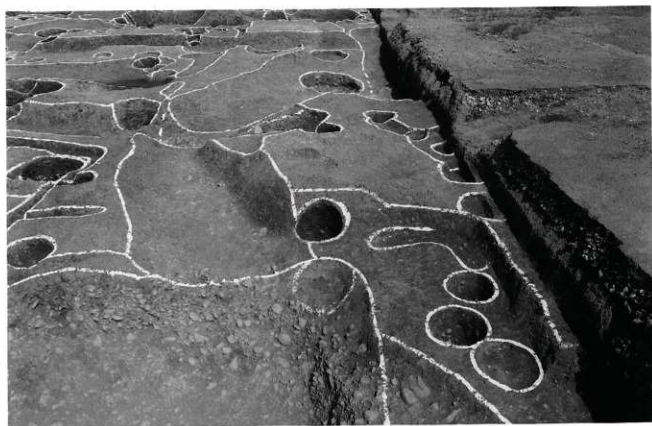
(2) S B25貯蔵穴(南壁中央の出入口付近に設けられたものと見られる。東より)



(1) S Z 15・16空中写真

(S Z 15は四隅に陸橋を設ける弥生時代中期後葉の方形周溝墓である。

S Z 16はS Z 15よりも新しい古墳時代初頭まで降る可能性も考えられる。南より)

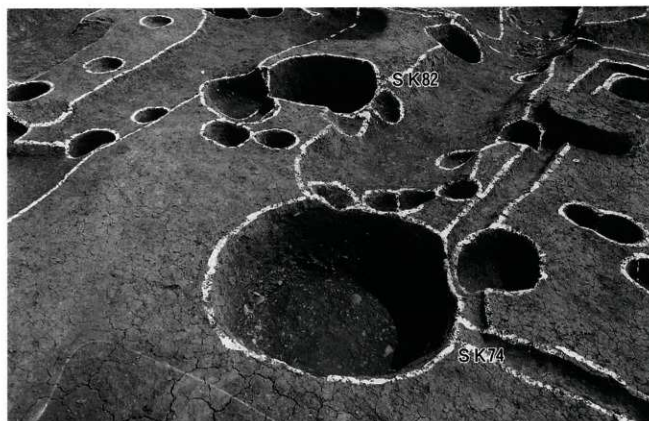


(2) S Z 16 (S Z 16は一部の検出であったが、検出された範囲では一隅は連結する形態である。西より)



(1) SK71

(戦国時代の大型の方形土坑である。水溜用であろう。
西半分は第75次-2発掘調査区で検出されている。南より)

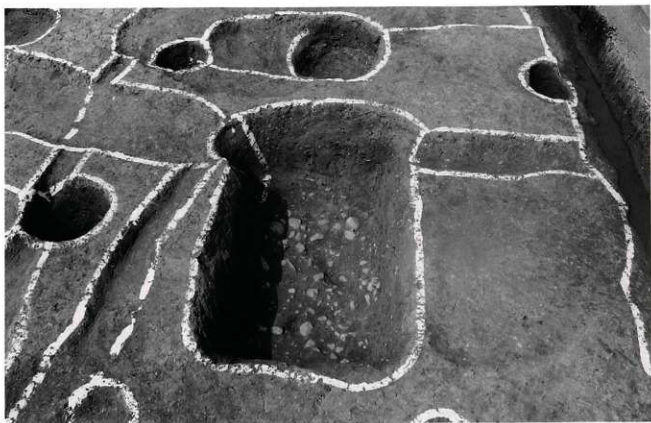


(2) SK74・82

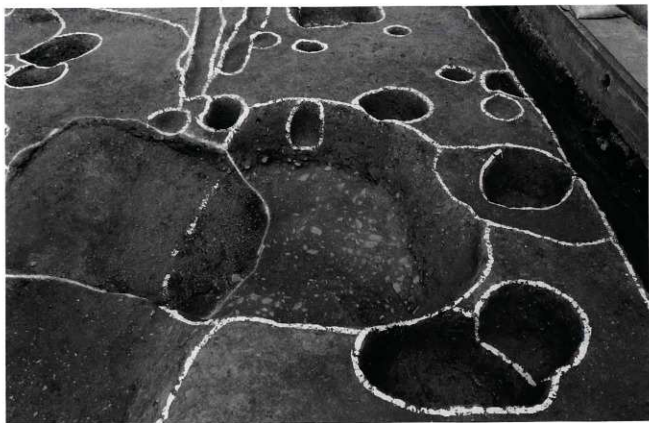
(江戸時代末期の水溜用の円形土坑である。多数検出されているため
付近に屋敷地が存在していたと考えられる。南東より)



(1) S K78 (古墳時代中期の溝状の土坑である。S Z15南溝と重複している。西より)



(2) S K79 (江戸時代末期の水溜用の方形土坑である。南より)



(1) SK80

(江戸時代末期の水溜用の大型の円形土坑である。屋敷地内に存在したものと考えられる。南より)



(2) SK81・83・84

(江戸時代末期の水溜用の円形土坑である。同時に存在していたかは不明である。南より)



(1) 重機による表土掘削作業（包含層がほとんど存在していないため、遺構確認面まで表土を除去した。）



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



(1) 第82次-1北発掘調査区空中写真全景
(弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居が重複して検出されている。北より)



(2) 第82次発掘調査区空中写真全景
(手前が1南調査区、奥が2調査区である。何れの調査区からも、弥生時代中期後葉の方形周溝墓、弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居が重複して検出されている。北より)



(1) 第82次発掘調査区空中写真全景

(左側が1南調査区、右側が2調査区である。弥生時代中期後葉～古墳時代後期の遺構以外では、戦国時代の大型土坑と掘立柱建物も検出されている。上が東で、真上より)



(2) SB17

(弥生時代後期の竪穴住居であると思われるが、地山への堀込が浅いため形態はよく分らない。焼失家屋で中央に焼土が検出されたが、確認面からかなり浮いていた。焼土と炉跡の区別はついたが、検出面は同じレベルであった。西より)



(1) SB17焼土・炉跡
(焼土の範囲は狭かったが良く焼けていた。炉跡は地床炉で、こちらも良く焼けていた。西より)



(2) SB57
(古墳時代後期の竪穴住居で、北壁にかまどが設けられている。
出入口付近と見られる南壁中央に貯蔵穴が確認できた。南西より)



(1) S B57かまど
(残存状況は悪く、土層を見ると壊されていることが分かる。南より)

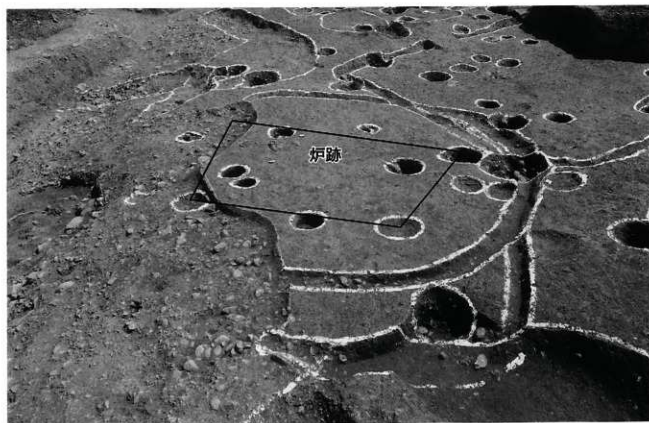


(2) S B57貯蔵穴土層
(自然に埋まったように見える土層である。東より)



(1) SB57貯蔵穴

(楕円形の上坑である。竪穴住居の南壁中央の出入口付近に設けられることが多い。南西より)



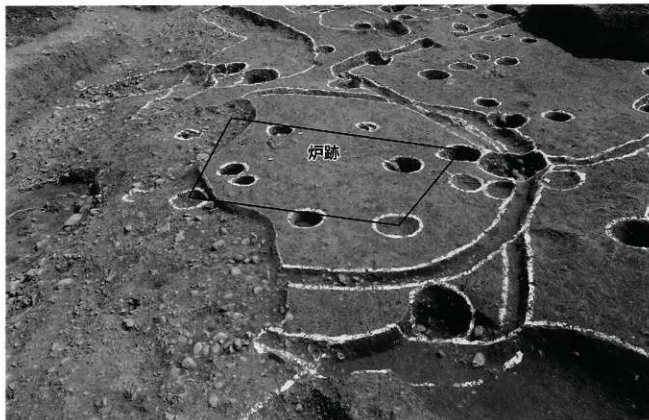
(2) SB58

(弥生時代後期の楕円形プランの竪穴住居で、北に寄った位置で炉跡が確認できた。壁溝から最低2回の建替えがあると見られる。西より)



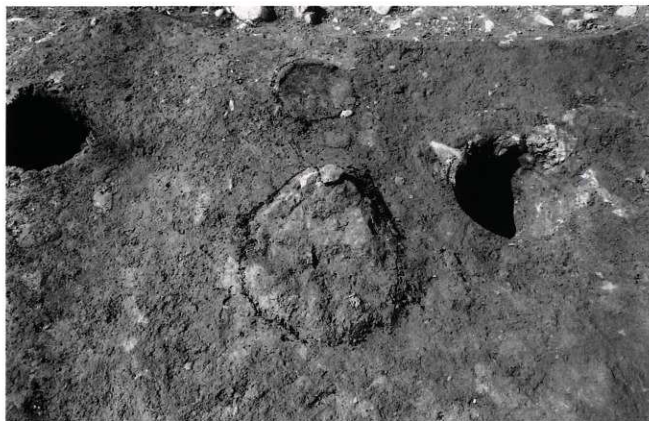
(1) S B57貯蔵穴

(楕円形の土坑である。竪穴住居の南壁中央の出入口付近に設けられることが多い。南西より)



(2) S B58

(弥生時代後期の楕円形プランの竪穴住居で、北に寄った位置で炉跡が確認できた。壁溝から最低2回の建替えがあると見られる。西より)



(1) S B58炉跡
(2箇所確認された地床炉で、何れも良く焼けている。
北側の炉跡については下部に小穴が伴うものであった。南より)



(2) S B58石器出土状況
(端部に赤色顔料の付着が認められたので、ベンガラを製造
したと見られる擦石である。南壁際より出土した。北より)



(1) S B59

(古墳時代後期の竪穴住居で、堀方が深いせいか壁溝は検出できなかった。
北壁にかまどが、出入口付近と見られる南壁中央に貯蔵穴が確認できた。南より)



(2) S B59かまど

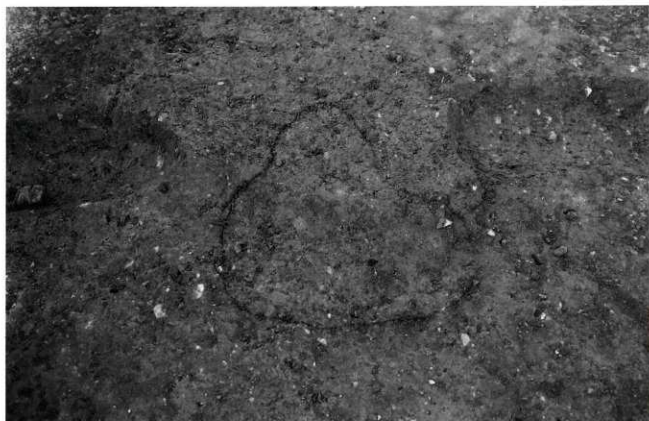
(白色粘土のかまどの壁体が馬蹄形に回ることが分かるため、壊されていないことが分かる。南より)



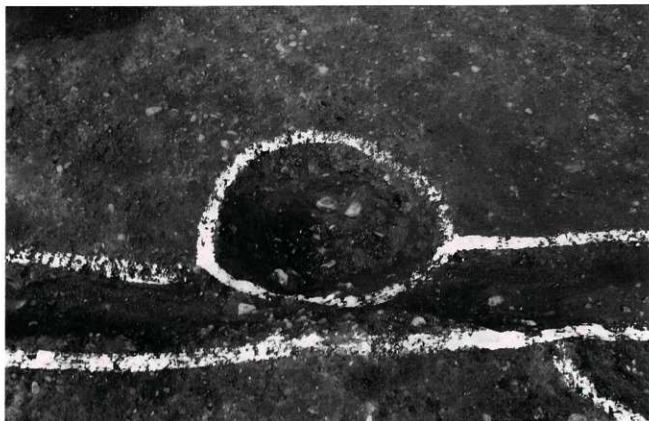
(1) S B59貯蔵穴
(方形の土坑である。竪穴住居の南壁中央の出入口付近に設けられていた。南より)



(2) S B60・61
(S B60は古墳時代後期の小型の竪穴住居であるが、北壁にかまどが、出入口付近と見られる南壁中央に貯蔵穴が確認できた。柱穴は確認できなかった。S B61の残存状態は良くないが、弥生時代後期の楕円形プランの竪穴住居と見られる。北に寄った位置で炉跡が検出された。南東より)



(1) S B60かまど（残存状況が悪く、焼土の範囲しか確認できなかった。南より）



(2) S B60貯蔵穴
（円形の土坑である。竪穴住居の南壁中央の出入口付近に設けられていたが、住居跡と同じく小さなサイズであった。南より）



(1) S B61炉跡
(地床炉で、あまり良く焼けていなかった。南より)



(2) S B62
(古墳時代後期の堅穴住居で、堀方が深いせいか壁溝は検出できなかった。
北壁にかまどが、出入口付近と見られる南壁中央に貯蔵穴が確認できた。南より)



(1) S B62かまど・土器出土状況

(残存状況が悪く、焼土と白色粘土が混じる範囲しか確認できなかったため壊されていることが分かる。かまど内から長胴甕、東側からも長胴甕の破片が出土した。南より)



(2) S B62貯蔵穴

(円形の土坑で、竪穴住居の南壁中央の出入口付近に設けられていた。南より)



(1) S B 63

(古墳時代後期の竪穴住居で、堀方が深いせいか壁溝は検出できなかった。
重複する S B 59 のかまどが壊されていないため、S B 59 よりも古いことが分かる。
北壁にかまどが、出入口付近と見られる南壁中央に貯蔵穴が確認できた。南より)



(2) S B 63 かまど・土器出土状況

(残存状況が悪く、焼土と白色粘土が混じる範囲しか確認できなかったため壊されていることが分かる。
かまど内から叩石が出土した。東側には土師器の破片が出土した。南より)



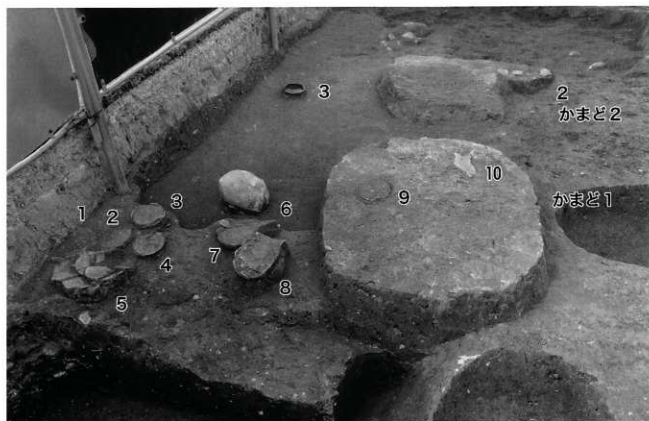
(1) S B63貯蔵穴

(円形の上坑で、竪穴住居の南壁中央の出入口付近に設けられていた。
1回堀なおされているため、2時期ある可能性がある。東より)



(2) S B64

(古墳時代後期の竪穴住居で、他の遺構との重複や調査区外になる部分があり全体の形態は分からない。壁溝とかまどの重複から場所を南側に変えて2回の建替えが確認できる。どちらの時期の住居も北壁にかまどが確認できた。北側の住居のかまど2の時期には出入口付近と見られる南壁中央に貯蔵穴が確認できた。北より)



(1) S B64かまど・土器出土状況

(何れも焼土と白色粘土が混じる範囲しか確認できなかったため、壊されていることが分かる。かまど1が完全に壊されていないため、かまど2の住居から、かまど1の住居への建替えがあったことが確認できる。かまど1の西側には土師器の長壺と坏、須恵器の坏がまとまって出土した。かまど2からも西側に須恵器の坏、東側に土師器の破片が出土した。南より)



(2) S B64貯蔵穴・土器出土状況

(円形の土坑で、竪穴住居の南壁中央の出入口付近に設けられていたと思われる。位置から見るとかまど2の時期の貯蔵穴で、内部より土師器の高坏と坏が出土している。北より)



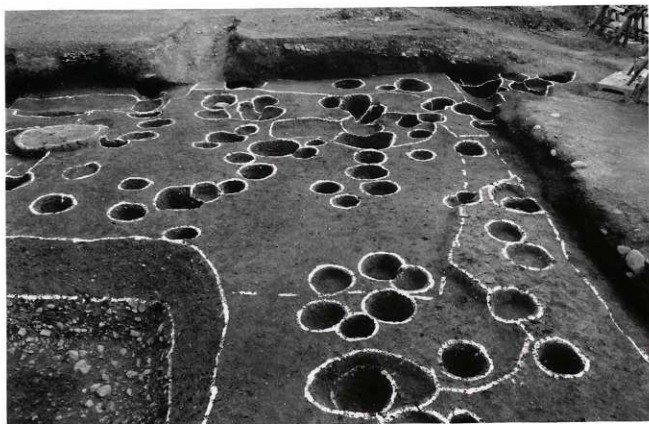
(1) S B65

(弥生時代後期の隔丸方形プランの竪穴住居で、東側で調査区外、北側で別の遺構と重複するため全体の形態は分からない。北に寄った位置で炉跡が検出された。南西より)



(2) S B65炉跡

(地床炉で、範囲は狭く、あまり良く焼けていない。南より)



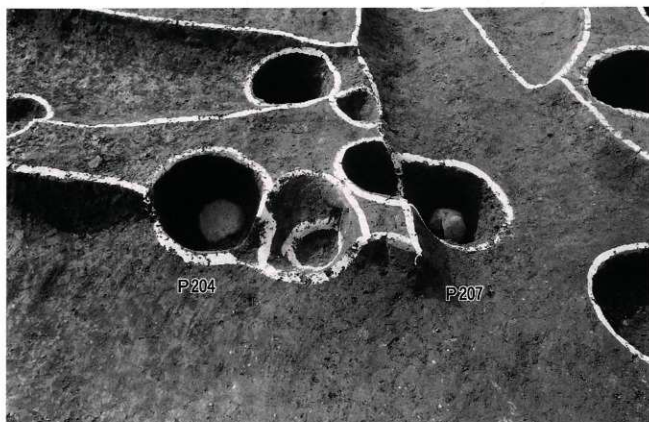
(1) S B59付近柱穴群

(戦国時代の掘立柱建物がありそうな柱穴群である。柱穴の中に礎石をもつものが存在する。西より)



(2) SH16

(戦国時代の東西方向を主軸とする1間×3間の掘立柱建物である。
柱穴の中に礎石をもつものが存在する。西より)



(1) SH16P204・207
(礎石をもつ柱穴である。戦国時代の掘立柱建物に多い。北より)

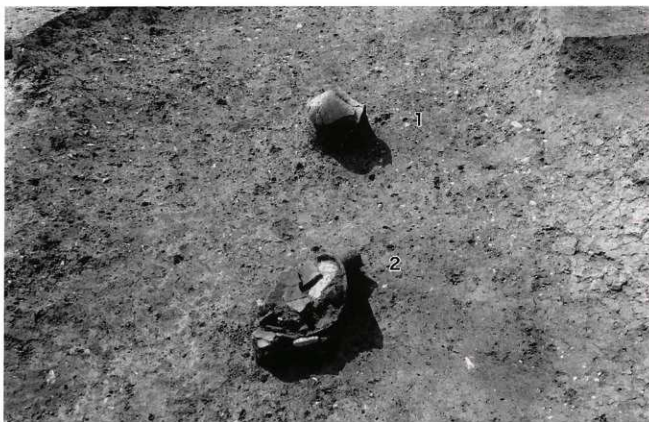


(2) SZ5空中写真
(西・北・南溝の一部の検出であったが、第18・62次発掘調査区でも検出されている。東溝は確認されていないが、四隅に陸橋を設ける弥生時代中期後葉の典型的な方形周溝墓であると思われる。西より)



(1) SZ 6 空中写真

(西溝と、北・南溝の一部の検出であった。東溝は確認されていないが、四隅に陸橋を設ける弥生時代中期後葉の典型的な方形周溝墓である。南より)



(2) SZ 6 南溝内土器出土状況

(底近くから出土し、何れも完形率が高いため、供献用の土器と見られる。1・2ともに壺である。東より)



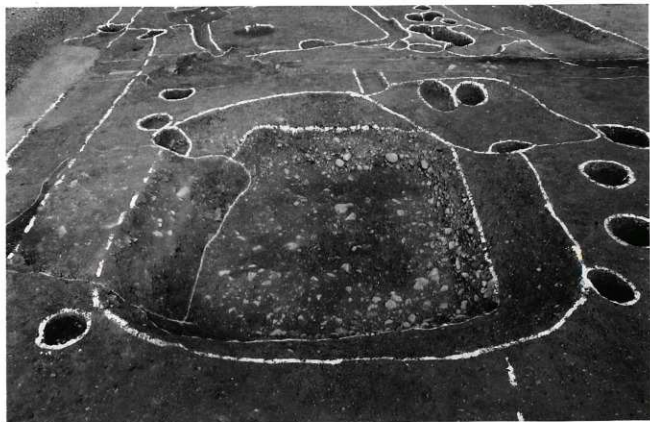
(1) SZ7

(西溝と、北・南溝の一部の検出であったが、四隅に陸橋を設ける
弥生時代中期後葉の方形周溝墓と見られる。南より)



(2) SZ7西溝内土器出土状況

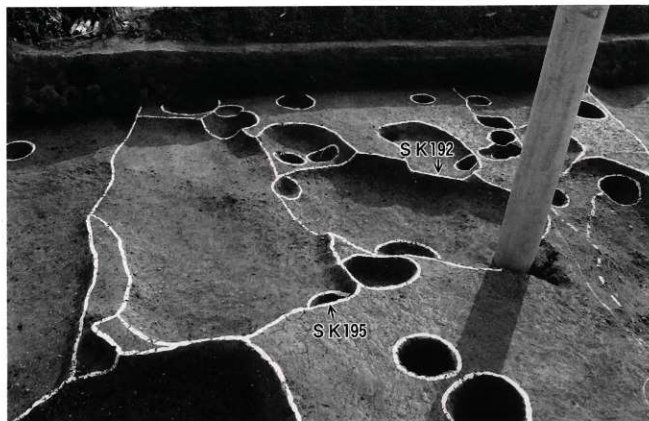
(底近くから出土し、何れも完形率が高いため、供献用の土器と見られる。
1は壺、2は台付甕である。南より)



(1) S K186
(戦国時代の深い大型方形土坑で、水溜用と思われる。南より)

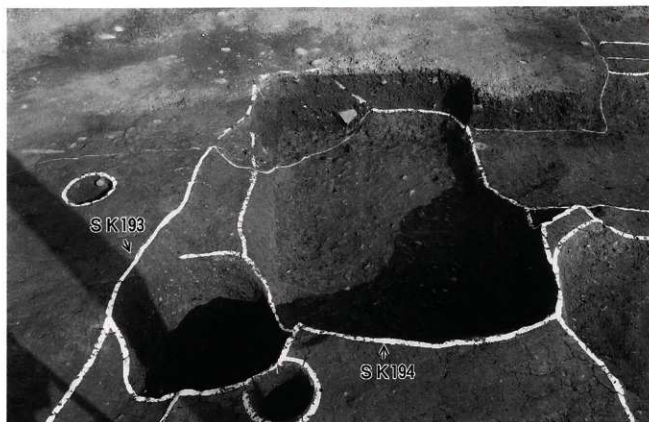


(2) S K191
(弥生時代後期の楕円形の土坑で、S K192・195と共に土坑が集中する場所に所在する。土器片の出土量は比較的多い。西より)



(1) SK192・195

(弥生時代後期の楕円形の大型土坑で、SK191と共に上坑が集中する場所に所在する。
何れも土器片の出土量は比較的多い。西より)



(2) SK193・194

(SK193は江戸時代末期の深い円形土坑で、水溜用と思われる。SK194はSK186と同じ形態の
戦国時代の深い大型方形土坑で、こちらも水溜用と思われる。SH16に関連した土坑と思われる。南より)



(1) SP176 (弥生時代後期の焼土坑である。SB65付近で検出された。南より)



(2) 1南調査区SB59付近東壁土層
(厚さ20cmの包含層が見られ、調査区全域に及んでいた。西より)



(1) 2調査区S B65付近東壁土層
(厚さ30cmの包含層が見られ、調査区全域に及んでいた。西より)



(2) 重機による表土掘削作業 (2調査区での作業である。)



(1) 人力による作業風景 (2調査区での遺構掘削作業である。)



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景



(1) 第84次-1発掘調査区空中写真遠景
(遺跡の南端に近い場所の調査区である。JR東海道線の跨線橋より
南側は大門遺跡となる。さらに奥の段丘には団子塚遺跡が存在する。北より)



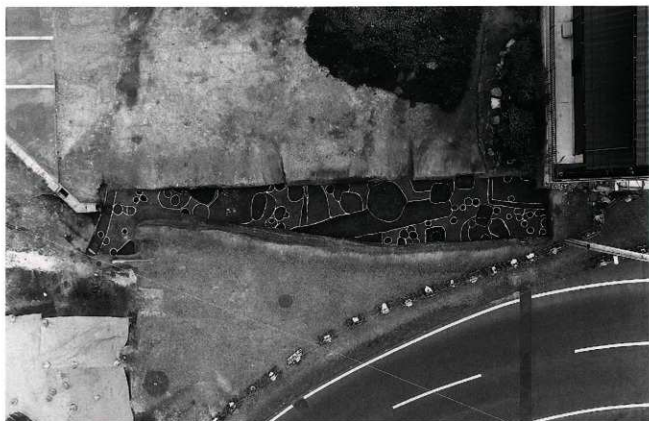
(2) 第84次-1発掘調査区空中写真全景
(弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居、同時代の柱穴が多数重複して検出されているので、
居住域の中心であったことが判明した。中・近世の区画溝も検出されている。南より)



(1) 第84次-1発掘調査区空中写真全景
(弥生時代後期と古墳時代後期の竪穴住居、同時代の柱穴が多数切り合い居住域の中心であつたことが判明した。中・近世の区画溝も検出されている。上が北で、真上より)



(2) 第84次-2発掘調査区空中写真全景
(1調査区と同様に弥生時代後期の竪穴住居や中・近世の区画溝が検出された。西より)



(1) 第84次-1南発掘調査区空中写真全景

(狭い調査区であるが、弥生時代後期の土坑、古墳時代後期の竪穴住居、同時代の柱穴が多数重複していることが確認できたので、居住域の中心であったことが判明した。上が東で、真上より)



(2) SB54

(弥生時代後期の隅丸方形プランの竪穴住居である。壁溝から最低4回の建替えがあったと見られる。北に寄った位置で炉跡が検出された。南より)



(1) S B54石器出土状況
(南東隅の壁際から出土した扁平片刃石斧と台石である。西より)

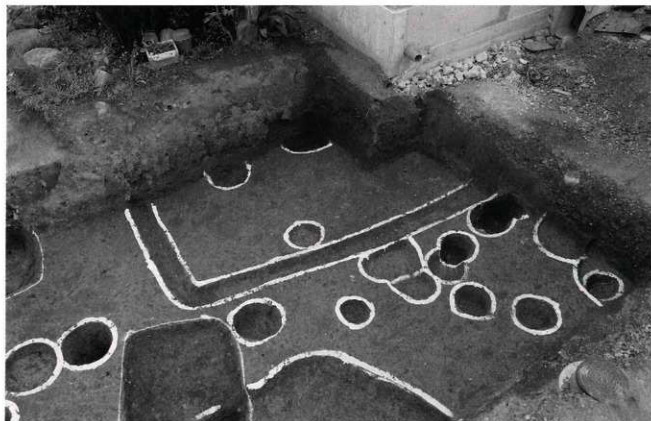


(2) S B54炉跡 (地床炉で、範囲は広く、良く焼けている。東より)



(1) SB55

(弥生時代後期の楕円形プランの大型竪穴住居である。堀方が深いため壁溝は部分の検出に留まった。炉跡は見つからなかった。南より)



(2) SB66

(古墳時代後期の竪穴住居で、大半は調査区外となりごく一部の検出に留まった。西より)



(1) S B67

(古墳時代後期の竪穴住居で、北壁に残存状況が良くないかまどが確認できた。
壁溝から最低2時期の建替えがあったことが確認できた。西より)



(2) S B67かまど

(残存状況が悪く、焼土の範囲しか確認できなかった。南より)



(1) S B68

(弥生時代後期の楕円形プランの竪穴住居である。

壁溝から最低2回の建替えが見られる。南より)



(2) S B68炉跡(地床炉で、残存状況は良くないが、広い範囲で焼けていたと思われる。南より)



(1) S B68石器出土状況（北壁際から出土した扁平片刃石斧である。南より）

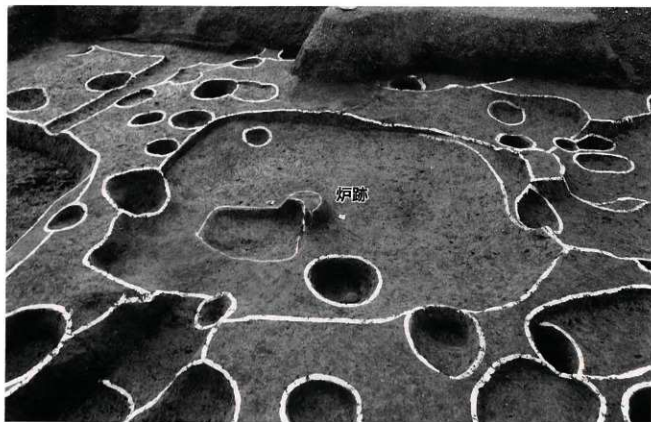


(2) S B69

（弥生時代後期の隅丸方形プランの竪穴住居である。堀方が深いため壁溝は検出できなかった。炬跡は北東に寄った場所で見つかった。北より）

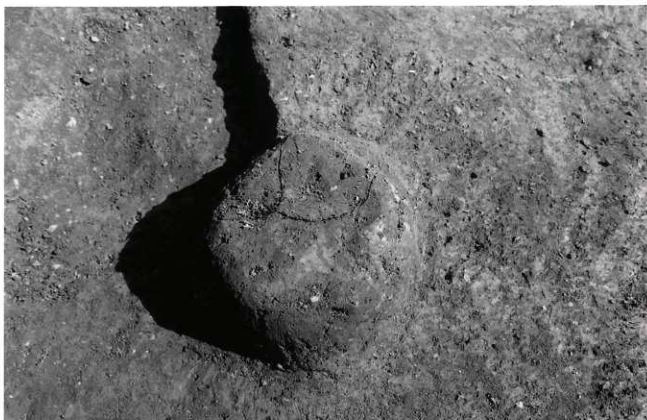


(1) S B69炉跡 (地床炉で、あまり良く焼けていない。西より)



(2) S B70

(弥生時代後期の隔丸方形プランの小型竪穴住居である。掘方が深いため壁溝、柱穴も検出できなかった。炉跡はほぼ中央で見つかった。北より)



(1) SB70炉跡（地床炉で、攪乱により一部失われている。あまり良く焼けていない。西より）



(2) SB71

（弥生時代後期の隅丸長方形プランの大型竪穴住居である。多数の遺構と重複するため一部の壁溝と柱穴の検出に留まった。炉跡は見つからなかった。南東より）



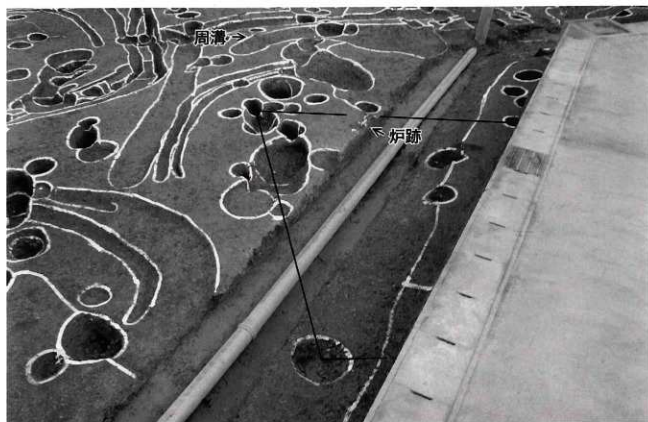
(1) S B72炉跡

(S B73付近で検出された炉跡で、多数の遺構と切り合うため、柱穴と炉跡しか検出されていない。地床炉で、良く焼けている。西より)



(2) S B73

(弥生時代後期の楕円形プランの大型の竅穴住居である。大半は第33次・第84次-2発掘調査区で検出されている。壁溝から見ると、最低2回の建替えがあったと見られる。炉跡は見つかっていない。西より)



(1) SB74

(弥生時代後期の隅丸方形プランの竪穴住居である。残存状況は良くなく、壁溝の一部、柱穴、炉跡の検出に留まった。壁溝から最低2回の建替えがあったと見られる。北に寄った位置で炉跡が検出された。北側には周溝をもつ可能性がある。南より)



(2) SB74炉跡

(大半は攪乱で壊されているため、部分の検出に留まった。地床炉で、良く焼けている。東より)



(1) SB75

(弥生時代後期の竪穴住居と見られるが、ごく一部の壁溝、
床面と炉、柱穴の検出のみで形態はよく分からない。東より)



(2) SX17

(弥生時代後期の竪穴住居であると思われるが、地山への堀込が浅いため形態はよく分からない。
焼矢家屋と見られ、中央に焼土が検出されたが、確認面からはかなり浮いていた。東より)



(1) SX17焼土（良く焼けており、焼土と炉跡の区別はつかなかった。西より）



(2) SH3空中写真

(大半は第33次・第67次発掘調査区で検出されている。南北方向に主軸をもつ3間×8間以上になる土間式の大形掘立柱建物の北側東西柱穴列の一部である。主軸が少し東に振れた奈良時代の郡衙正倉建物と同一の主軸方向を示すので、郡衙関連建物であることは明らかである。正倉院以外で見つかった建物としては最大である。北より)



(1) SH3 P14土層

(土層からは直径30cmの柱穴の痕跡が確認できた。版築状に柱を固定していることが分かる。北より)



(2) SH3 P14

(北列の東よりの柱穴と見られる。底に直径30cmの柱穴の痕跡が確認できた。北より)



(1) SD109 (弥生時代中期後葉の溝であるが、方形周溝墓の溝に類似する。南より)

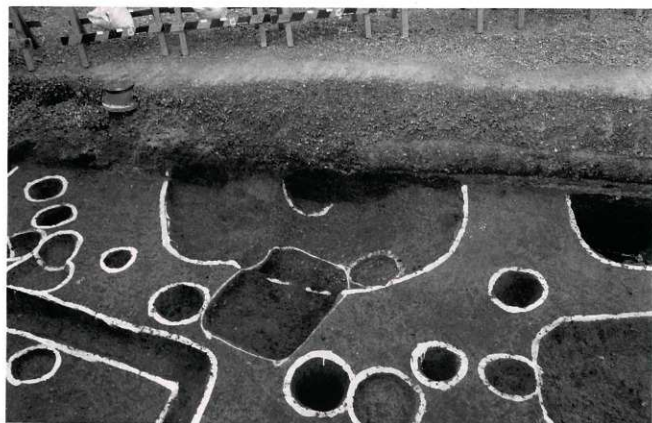


(2) SD113・114空中写真

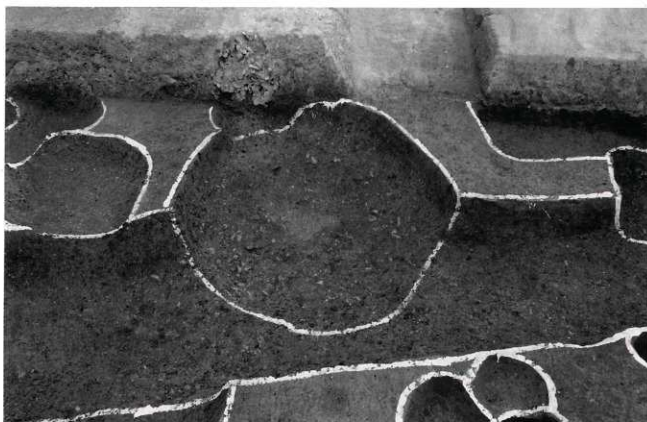
(SD113は東西北を方形に囲む戦国時代の区画溝である。内部については遺構の切り合いが激しく同時代の建物はよく分からない。同時代の井戸や土坑もないようである。SD114は江戸時代末期の南北方向に流れる区画溝で、規模が大きいため基幹水路としての役目もあったと考えられる。南より)



(1) SD113西溝土層
(自然堆積の状況で、水の流れた様子は観察されない。南より)



(2) SK179
(弥生時代後期の楕円形の土坑で、第67次発掘調査区では比較的多量の土器片が出土している。廃棄用土坑か。東より)



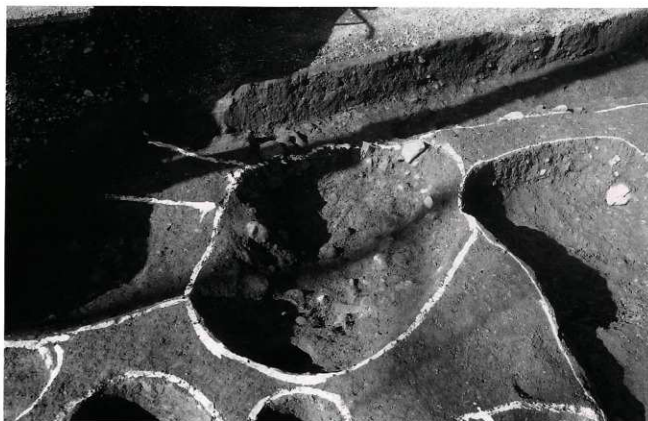
(1) S K196

(弥生時代後期の楕円形の上坑である。土器片の出土量は少ない。北より)



(2) S K200

(弥生時代後期の楕円形の土坑で、完形率の高い小型壺が底近くから出土した。南より)



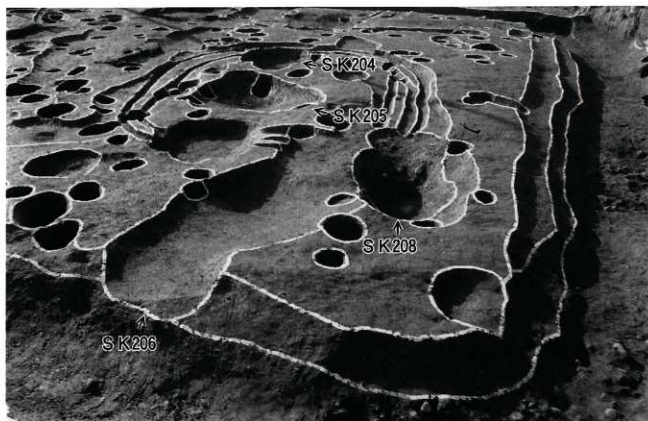
(1) SK201

(弥生時代後期の楕円形の土坑で、S B75の付近に所在する。大量の土器片が出土した。東より)



(2) SK202・203・207

(弥生時代後期の楕円形の大型土坑で、S B68の付近に所在する。土器片の出土量は比較的多い。東より)



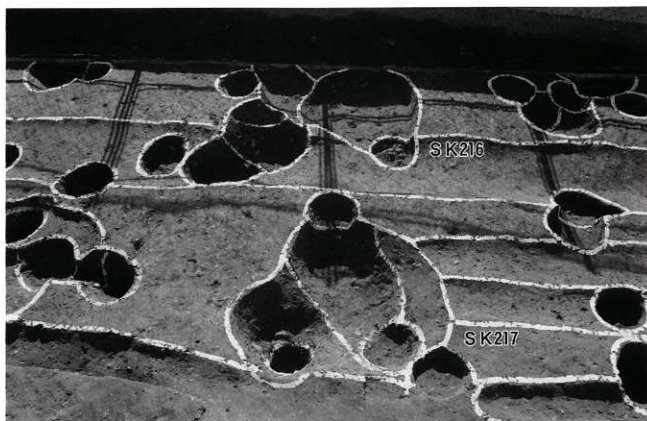
(1) S K 204～206・208

(弥生時代後期の大型土坑群で、S B 68が廃絶した後に集中して掘られたものと見られる。何れも土器片の出土量は比較的多い。東より)



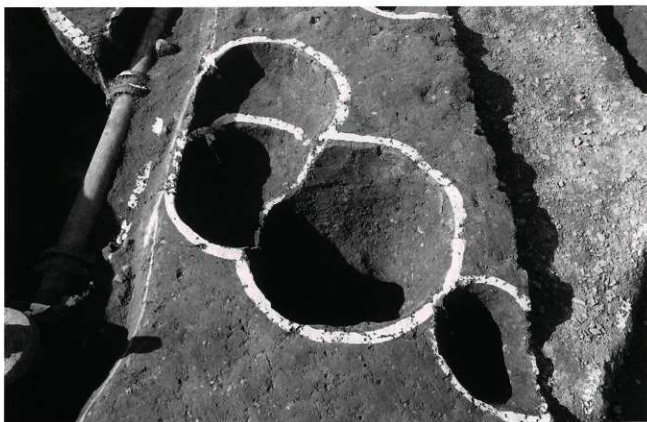
(2) S K 204・205

(弥生時代後期の楕円形的大型土坑で、S B 68が廃絶した後の窪地に掘られたものと見られる。土器片の出土量は比較的多い。東より)



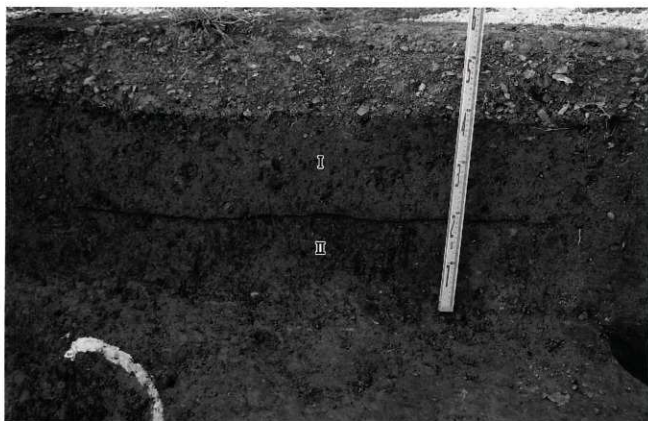
(1) S K216・217

(弥生時代後期の楕円形の土坑で、S B73の付近に所在する。土器片の出土量は少ない。北より)



(2) S P444

(古墳時代後期の円形の穴で、竪穴住居は確認できていないが、大きさと深さから見て貯蔵穴の可能性が高い。東より)



(1) 1調査区SB71付近西壁土層
(厚さ20cmの包含層が見られるが、南西端の一部のみで
確認できたにすぎず、調査区全域には及ばない。東より)



(2) 重機による表土掘削作業
(1調査区は攪乱により包含層がほとんど存在していないため、遺構確認面まで表土を除去した。)



(1) 人力による作業風景 (1 調査区の S B68付近での遺構掘削をしている。)



(2) ラジコンヘリによる写真撮影・測量作業風景

報告書抄録

フリガナ		カケノウエイセキ					シャシンズハンベン						
書名		掛之上遺跡79・80・81・82・84写真図版編											
副書名		袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書28											
編集著者名		松井一明											
編集機関名		袋井市教育委員会											
所在地		〒437-1192 静岡県袋井市浅名1028番地 電話0538-23-9269											
発行年月日		2010年3月26日											
フリガナ 所収遺跡名		カケノウエイセキ 掛之上遺跡											
フリガナ 所在地		シズベコアンツクロイシタカモカケノウス 静岡県袋井市高尾掛之上											
コード		北緯		東経		調査期間		調査面積		調査原因			
市町村		遺跡番号		34° 44' 24"		137° 55' 53"		20090519 ～ 20100325		2005.0㎡		袋井市駅前第二地区 土地区画整理事業に伴う掛之上小野田線 道路他建設工事	
22216		151											
所収遺跡名		種別	時代	主な遺構			主な遺物			特記事項			
掛之上遺跡		集落跡	弥生時代 中・後期 古墳時代 前期・後期 奈良時代 鎌倉～戦国 近世	竪穴住居 方形周溝墓 土坑 方形周溝墓 竪穴住居 掘立柱建物 土坑 掘立柱建物 掘立柱建物 区画溝 土坑 区画溝			土器・石器 土器（土師器・須 恵器） 須恵器 山茶碗・陶磁器 陶磁器・かわらけ			弥生時代中～ 後期有力集落 古墳時代後期 有力集落 郡衙推定遺跡			

袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書28

掛之上遺跡 79・80・81・82・84

— 写真図版編 —

発行年月日 2010年3月26日

編集・発行 袋井市教育委員会

袋井市役所都市建設部区画整理課

〒437-8666 静岡県袋井市新屋1-1-1

印刷 松本印刷株式会社

〒437-0013 静岡県袋井市新屋4丁目5-2